

第2回全国邦楽合奏フェスティバル 和楽器による音楽づくり

～箏による音楽づくりのアイデア～

2014年2月1日(土) 12:50～13:50

担当:吉原佐知子(箏)

箏を使って音楽作りをすると、箏の奏法を楽しく習得できます。

また、よく聴きあいながら音を探したり、音を重ねて行く過程において、創作意欲や、音楽性の向上がはかれると共に、箏の可能性を追求することができます。

A. 「さくら」による音楽作り

「さくら」は平調子で弾ける代表的でしかも簡単な曲です。

主旋律が弾けるようになったら、独自の「さくら変奏曲」を作ってみましょう。

～実践例～

① さくらの主旋律の練習 調絃→平調子

七七八 七七八 七八九八 七八七六 五四五六 五五四三 七八九八 七八七六
五四五六 五五四三 七七八 七七八 五六八七六 五

汐文社 出版 「やさしく学べる箏教本」
現代邦楽研究所編 P44～47

② 伴奏を作る (簡単なくり返し)

箏は、同じ調絃どうしなら調性が一緒なので、どの絃を弾いても合うものです。
4拍のくり返しパターンを考えてみましょう。(何種類か重ねるときれいです)

パターン例
 一三四 五 ♯ % % 中指で引っ張る
 二二三三 % % 右手薬指ではじく
 中為斗 九八七六 % %

③ 合いの手を考える

一面の箏からでも様々な音色が出ます。自由に探してみたり、既成の奏法を使ったりして合いの手を考えましょう。

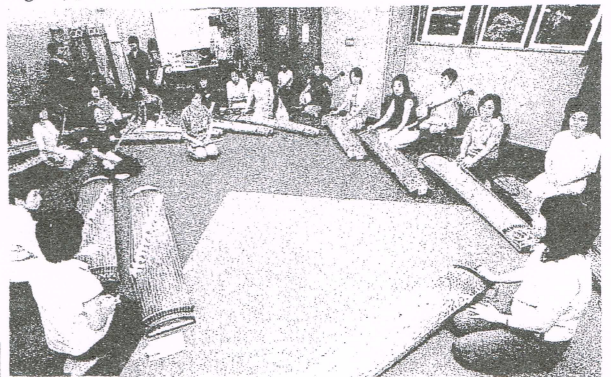
合いの手例
 自由にグリッサンド
 絃を爪でこする
 木の部分を手でたたく

ために「さくら」のメロディのあいている部分に合いの手を入れてみましょう

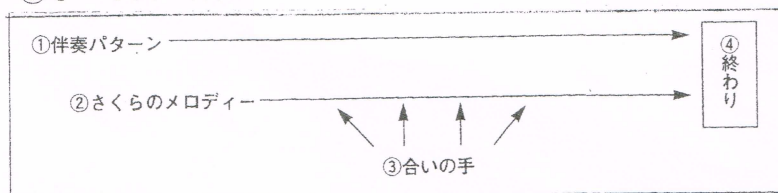
七七八 七七八

④ 終わり方を決める

終わり方例
 みんなでグリッサンドする
 だんだん小さくする
 誰かの合図で終わる



⑤ 3～6人で合奏してみましょう



<方法>

①→②→③の順で重ねて行き、あらかじめ決めておいた終わり方で終わります。

<ルール>

ルールはただ一つ、よくまわりの音を聴きあうことです。

B. 「さらし」による音楽作り

「さらし」とは、古来、日本人が川で布をたたきながら製布していた時の川を打つ音をあらわし、箏曲でも「さらし」の音型を用いた曲がいくつもあります。平調子の「十八九八」「五三四三」がさらしの音型です。

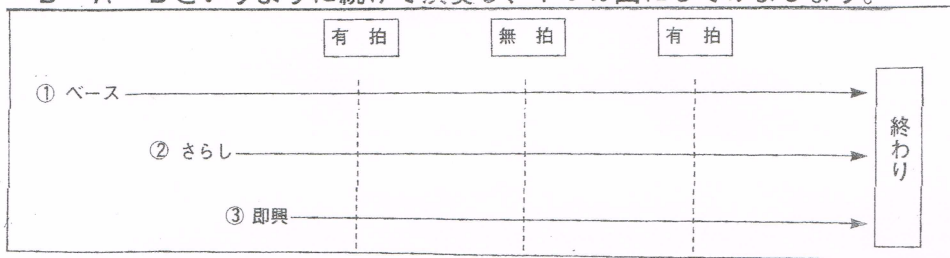


参考楽曲：深草検校作曲 「さらし」
宮城道雄作曲 「さらし風手事」
中能島欣一作曲 「さらし幻想曲」

調絃は平調子でもいいのですが、さらしの音以外の柱を動かして、独自の調絃にしても楽しいですよ。

～実践例～

- ① ベースの音を決める
- ② さらしの音型の練習
- ③ ベースとさらしの上で対旋律や即興を自由に重ねる
- ④ 上記の①～③をA「有拍のさらし」B「無拍のさらし」でそれぞれ作り、
A→B→A や B→A→Bというように続けて演奏し、1つの曲にしてみましょう。

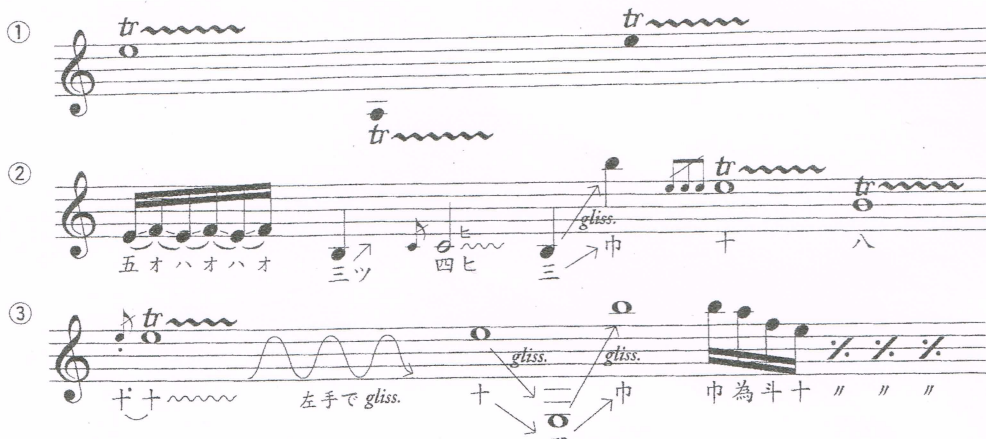


- ①→②→③の順に重ねて行きます
- 有拍、無拍、線わりのきっかけはベースの人が出します。

有拍の「さらし」譜例 ①→②→③の順に重ねて行きます。



無拍の「さらし」譜例 ①→②→③の順に重ねて行きます。



その他の音楽作りのキーポイント

- 方法① 調絃を工夫する。(柱を自由に移動して調性を変える)
- 方法② 使う音型やメロディーをかえてそれに合わせる。
- 方法③ リズムを変化させる(3拍子、5拍子など)